

様式1 令和5年度 山梨県立かえで支援学校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	子どもたちが幸せな人生を送るために「行きたい学校」「行かせたい学校」「連携したい学校」「働きたい学校」
-----------	---

山梨県立かえで支援学校校長 荒川昌浩

本年度の重点目標	1 個に応じた指導を充実する
	2 保護者の本校に対する理解を深め、相互の連携を深める取組を推進する
	3 特別支援教育を推進する
	4 教員の働き方改革を推進する

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価						
本年度の重点目標			年度末評価(2月1日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	児童生徒一人一人のニーズに応じた教育活動を通して、自己肯定感を育み、持てる力を最大限に伸ばす。	「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を活用した適切な指導及び必要な支援の提供	・活用及び提供状況 ・アンケートの実施	・教務主事連絡会(教務主任・各学部主事との情報交換)を定期的に行い、他学部との一貫性や連続性、教育目標を意識して教育課程編成を行った。 ・適切な「実態把握と目標設定」、「指導と評価の一体化」を念頭に個に応じた指導の実践を行った。 ・観点別評価を意識して、目標設定及び学習評価を行った。	A	・来年度も引き続き、教務主事連絡会で学部間の情報や課題を共有し、一貫性や連続性を考えた指導内容を実践し、成果を上げていく。 ・キャリアパスポートにより、学年や学部間の段階での学びをつなげ、キャリア教育の意義を浸透させていく。 ・観点別評価を意識し、指導目標と評価をより具体的にしていく。
		「キャリアパスポート」による客観的な実態把握の促進	・キャリアパスポート活用状況			
		評価規準の明確化と「指導と評価の一体化」の推進	・評価項目の精選 ・アンケートの実施			
2	保護者との信頼関係を構築し、児童生徒の教育に係る情報提供や情報交換を積極的に行う。	学校での教育活動について情報提供と説明責任を果たすことによる、保護者との信頼関係構築	・学部保護者会、家庭訪問、個別懇談、学部・学級だよりなどの実施状況	・学部・学年だよりを定期的に行ったり、「個別的教育支援計画」や通信表等を通じた家庭との情報共有や連携を図った。 ・マチコミを利用し、各種の通知や案内を送信するとともに、感染症予防対策や緊急の連絡等を発信し、周知することができた。 ・学校ホームページの更新を定期的に行い学校の情報の周知を行った。	B	・引き続き、家庭との連携を強化し、保護者との信頼関係構築に努めていく。 ・マチコミでの通知や連絡は周知できているが、ホームページでの学校行事等の活動が認識がされていない。ホームページの内容の充実を図り、積極的にPRしていく。
		「個別的教育支援計画」や通信表等を通じた家庭と情報共有及び連携	・活用及び提供状況 ・アンケートの実施			
		学校ホームページによる情報提供を通じた保護者との情報共有及び連携	・活用及び提供状況 ・アンケートの実施			
3	特別支援教育に係る専門性の向上を図るとともに、地域の特別支援教育のセンターとしての役割を果たす。	自校教員の専門性の向上(特にASDに係る専門性)	・各種研修会の開催 ・外部専門家の活用	・共通のテーマのもと、各学部ごとに研究発表を行う等、教職員同士で学び合い、成果を共有し個々のレベルアップが図られた。また、外部の講師を招き、専門性の向上に努めた。 ・個別相談に力を入れ、センター的機能を担い本校の教育活動の発信に尽力した。	A	・研究部を中心に設定したテーマに基づき各学部で研究に取り組み、教職員が学び合う場を提供するとともに、自ら専門性の向上に努める研修会を実施する。 ・引き続き、個別相談に力を入れ、センター的機能を担っていく。
		地域ニーズに応じたセンター的機能の発揮	・実施状況 ・定期的な情報発信			
4	教員の働き方改革を推進することにより、より効果的な教育活動を展開する。	教員の健康管理の推進	・各種検診の情報提供と職員検診の実施状況	・各種検診を朝礼等で情報提供し、職員検診については、ほぼ全職員が期日内に受診できた。 ・私生活を充実するため、月2回定時退校日を設定し、学校全体として取り組んだ。また、時間外勤務時間の短縮、休日出勤日数の減少に努めた。	A	・引き続き教員の健康管理の推進を図る。 ・完全定時退校日の完全実施や時間外勤務時間短縮、休日出勤日数の減少を呼びかけ、時差出勤を推奨し、教員の働き方改革を推進していく。
		教員の私生活を充実させることによる教育実践の充実	・定時退校日、年休消化状況			

学校関係者評価	
実施日(令和6年2月8日)	
評価	意見・要望等
4	・児童生徒が明るく楽しく授業を受けている一方で、先生方も粘り強く指導している様子が見られた。 ・学習指導要領の改訂に伴って、各学部で各教科の授業づくりに苦勞が感じられる。教科指導が進むと、合わせた指導としてこれまで引き継がれてきたものが途切れてしまうのではないかと危惧される。児童生徒の実態に合わせて、各学部で指導内容や指導方法を検討し実践していく必要がある。 ・小学部、中学部、高等部の学部間の一貫性や連続性を考えた指導内容を実践していく必要がある。
3	・情報提供について、マチコミを利用し、学校からの通知や案内を送信することで、紙ベースであった以前に比べて、いち早くかつ確実に届くようになっていく。各家庭との連携、保護者との信頼関係ということも考えると連絡帳のやりとりが基本となると思う。 ・新年早々地震があったが、この機会に災害時のシミュレーションは大切だと思った。授業時に起こった時の児童生徒の安全確保や保護者への引き渡し等、予測が困難だけにできる限り周知をお願いしたい。また、学校を地域の緊急時避難場所として開放すると思われるが、地域との連携についても検討していく必要がある。
4	・最近では小学部から特別支援学校を望む家庭が多いが、児童の実態によっては地域で学校生活を送れるのではないかと感じる。 ・相談支援部から出されている職員向けの通信で、外部専門家の意見をコンパクトにまとめて発信している。こういった専門家の意見を汲みながら、児童生徒の指導に生かしていくことはとても良い取り組みである。
4	・ICTを活用し、会議時間の短縮、事前資料配布、印刷業務をなくしペーパーレスにする等、業務の効率化が図られて良いと思う。一方で煩雑にならぬようしっかりと周知していく必要がある。 ・休日出勤日や月の時間外勤務時間を把握し、気になる教職員には面談を行う等、学校全体として取り組んでいる様子が窺える。こうした取り組みが教職員のメンタルヘルスケアにつながるのを継続して行っていくと良い。